

## 2012年度事業計画

2012年度は創立50周年にあたるとともに、公益財団法人としてスタートを切る年でもあり、これまでも増して健全で透明な楽団運営が求められる。公益性という観点では、何よりもまず高いレベルの演奏を維持することに重点を置き、国内トップオーケストラとして音楽文化の普及・発展のための新企画にも挑戦していく。また、経営基盤の強化を図るため、100回超の年間公演数を維持するとともに、11年度に達成した演奏収入5億円を堅持する。

### (1) 50周年記念事業の展開

12年1月から13年3月までの15か月間を「50周年イヤー」と位置付け、様々なイベントを展開する。8月には広島（6日）、長崎（9日）で、原爆忌当日に特別演奏会「世界平和への祈り」を開催する。常任指揮者・カンブルラン指揮のもと、地元市民で編成する合唱団をまじえてモーツァルトの「レクイエム」などを演奏、曲間には吉川晃司（広島）、白石加代子（長崎）による詩の朗読をはさむ。このほか、歴代常任指揮者がシリーズ公演に相次いで登場、「三大交響曲」「三大協奏曲」の2大名曲演奏会を札幌から福岡までの各都市で開催して全国のファンに感謝の気持ちを伝える。「50周年記念事業」の冠を付す公演は計15公演となる。

このほか、10月には都内のホテルで300人規模の記念パーティーを開催、半世紀の歩みを振り返る「50周年記念誌」も刊行する。

### (2) 新たな半世紀を見据えた演奏活動

常任指揮者のカンブルラン、正指揮者の下野竜也は、12年度いっぱいまでそろって契約期間満了を迎える。初のフランス人常任指揮者として迎えたカンブルランは、幅広いレパートリーで年ごとに着実にファンを増やしており、引き続き2期目（13年4月～16年3月）の常任指揮者契約を結んだ。6年半にわたって正指揮者を務めた下野は、13年度以降「首席客演指揮者」に就任する。

演奏会の軸となるシリーズ公演は引き続き5シリーズを開催するが、東京芸術劇場の改修工事に伴って11年度は東京オペラシティで開催した2シリーズは、10月以降、改修を終えた東京芸術劇場に会場を戻す。今のところ、年間の公演回数は102回（自主公演71回、依頼公演31回）を予定している。

各シリーズには、カンブルラン、下野のほか、フリーベック（第4代）、尾高忠明（第6代）、アルブレヒト（第7代）、スクロヴァチェフスキ（第8代）ら歴代の常任指揮者が相次いで登場、懐かしい名演を再現する。ソリストでは、ウィーン・フィルのコンサートマスターで指揮も務めるヴァイオリンのホーネック、女性ヴァイオリニストのララ・セント・ジョンや、人気ピアニスト辻井伸行らを迎える。

日本テレビとBS日テレの「深夜の音楽会」は12年度から「読響シンフォニックライブ」と番組名が変わり、これまでと同様月1回のペースで放映される。

また、楽員の演奏技術と意欲の向上や海外の一流演奏家の招へいなどに大きく影響する海外公演を14年度に行うこととし、準備作業に本格着手する。この費用を賄うため、12年度から「特定準備資金」の積み立てを開始する。海外公演は02年度のオーストリア・ドイツ公演以来12年ぶりとなる。

### (3) 公益法人としての基盤強化

社会貢献、地域貢献にこれまで以上に力を注ぐ。12年3月に福島県いわき市で行った「復興支援コンサート」は、5か年の継続事業とし、12年度は宮城県名取市で開催、周辺の学校や市民オーケストラに対する指導や共演なども併せて行っていく。また、音楽団体などが行うコンクールへの後援名義の提供や「読響賞」の贈呈など、アマチュアの音楽活動に対する支援プログラムもスタートさせ、クラシック音楽のすそ野拡大に努める。

顧客サービスの向上も図り、チケットセンターの土日対応、WEBサイトでの会員継続手続きなどを実現させる。

法人内のコンプライアンス強化も急務となる。公益移行に併せて明文化した会計処理規定や公印管理規定など諸規定を順守するとともに、公演会場での現金取り扱い業務も減らしてリスク管理を徹底する。

経理面では、公益目的事業に非課税措置が適用される一方、「公益目的事業にかかる収入がその実施に要する適正な費用を償う額を超えてはならない」という「収支相償」の原則が求められる。とはいえ、長期的な安定経営を目指し、より良質な演奏活動を続けていくためにも、「公益法人」の社会的信用をフルに生かして積極的な事業展開を心がける。

読売新聞社・日本テレビ放送網・読売テレビの支援3社からいただいている事業契約金は、12年度から減額し、11年度に開始した川崎市の練習所の賃料支払いと合わせ、実質1割減となる。

### (4) 南葵音楽文庫コレクションの保存および公開

演奏活動と並ぶ公益事業である「南葵音楽文庫コレクション」の運営も課題となる。同コレクションは、紀州徳川家第16代当主の徳川頼貞が集めた音楽関連図書を中心としたもので、1977年に当財団に寄付された。総点数約1万点で、ベートーヴェンやヘンデル、リストの自筆楽譜など貴重資料約800点を含む。

2006年から07年にかけて、慶応義塾大学の協力を得て貴重資料のうち約50点（画像数として約2800点）を高精細画像でデジタルデータ化したが、今後、さらに資料の整理・分類を進め、財団ホームページでの公開などを検討していく。

# 事業計画一覧

## I. 自主公演 71回

---

1. 定期演奏会	11回
2. 名曲シリーズ	11回
3. オペラシティ東京芸術劇場名曲シリーズ	11回
4. オペラシティ東京芸術劇場マネーシリーズ	11回
5. みなとみらいホリデー名曲	8回
6. 特別演奏会	15回
都区内特別	3回
地方特別	3回
サマーフェスティバル	2回
第九公演	2回

## II. 依頼公演 31回

---

1. 東京都区内公演	26回
2. 地方公演	3回
3. テレビ出演	2回

合計 102回